1年生の取り組み

☆能学習　　12月23日（月）3・4限

能楽堂から4人の講師の方を招き、熊取町文化ホールで能学習を行いました。

1.内容　　① 能について
② 動作説明
③ 演技
④ すり足体験：実技（舞台上は各クラス4名、計16名　　他は自分の座席で）
⑤ 楽器体験：実技（舞台上は各クラス2名、計8名）
⑥ 能の装束体験（教員1名）

2.事前学習
「能」についての調べ学習（校内に掲示したものを、当日ホール内でも掲示した）

3.「生徒の振り返り」より
- お面をかぶっている人の顔の角度が重要だと言うことが分かった。少しでも角度を下げたり上げたりするだけで意味が変わってくることがおもしろいと思ったし、重要だということがわかった。
- 能を上演するのに、音楽、うたいとかたくさんの人がいるということに驚きました。能を舞うには着方も覚えないといけないので、大変だなと思いました。
- たいこが面白いなと思いました。なぜならたいこをたたくときにはじくんじゃなくて、　おすとかポイントがあったり、かけ声があったりしたからです。たいこの音に合わせて芸をしているから重要だと思いました。
- かまえが面白かった。なぜなら昔のさむらいの文化からきていることがわかったから。
- たいこをたたく時の「ヤー」「ホー」が印象に残った。
- すり足やかまえ、竹田先生の衣装などがあって、学びながら楽しむことができた。
- 「能」は観阿弥・世阿弥が完成させたことは分かってたけど、それだけではなく色々な詳しいことをこの授業と新聞づくりを通じてよくわかった。先生の着替えを目の前で見たおかげで能の衣装の豪華さや重さや責任などがよく伝わって、見てよかったと思った。
- 実際に能を見て、「へーこんなんなんや！」って思いました。しゃべる人と動く人と楽器の人の3人やけど、迫**力**がすごかった!!楽器の人の役割は大きいなと思った！
- 能楽師の人が役に入り込んでいたから私も入り込めました。すり足、声の出し方、着付けの仕方など能楽師しか知らないことを教えてもらえてうれしかったです
- 能が昔から今までずっと受け継がれてきていることがすごいと思った。たいこやすり足をやってみたいと思った。日本の昔から伝わっている文化を大切にしたいと思った。
- 社会で調べてまとめるだけじゃなくて、本当に見に行ってよく見て考えることで、能について深く知ることができるというのが、この授業を通してよくわかりました。